

会議の結果報告

名称	令和7年度 玉川地区学校適正配置地元代表協議会【第3回】	
開催日時	令和8年2月12日(木) 19時00分～21時00分	
開催場所	玉川支所 2階 大ホール	
出席者	【委員】 会長 外24名(教育長、副教育長を含む)	
	【その他】 玉川支所長	
	【事務局】 今治市教育委員会教育政策局長 外7名	
傍聴者	6名	
議題	1	前回出た質問や要望への回答について
	2	望ましい学校のあり方について
	3	意見交換
	4	中間まとめ
議事内容	1	<p><b>前回出た質問や要望への回答について</b></p> <p>・町内の学校(鴨部小・九和小・玉川中)までの、各地区集会所からの距離を示した資料を提示した。</p> <p>・前回提示した資料の修正及び社会体育等で学校体育館を使用する頻度・人数等を追加した資料を提示した。</p>
	2	<p><b>望ましい学校のあり方について</b></p> <p>・今後検討すべき項目、検討スケジュールを提示した。</p> <p>・各小学校の人数推移見込、教員配置の見込、施設の比較資料を提示した。</p> <p>・これまでの協議会での意見、各小学校でのアンケート結果を基にした統合場場所を提案した(小学校での統合、中学校を含む3校統合)</p> <p>・新しい学校での魅力・特色の方向性を提示した。</p>
	3	<p><b>意見交換</b></p> <p>(保護者の意見)</p> <p>・「九和小学校案」を協議会の意見とすることに強い違和感、不適切性を感じつつ、「玉川中学校案」を好意的に受け止める意見があった。</p> <p>(地域の意見)</p> <p>・人口推移を踏まえた統合の必要性について理解する意見があった。</p> <p>・市内での過去の学校統合が地域に与えた影響として、地域がさびれた例による指摘と、学校をはじめとする公共施設の撤退は、地域へのダメージが大きいとの危機感を示す意見があった。</p> <p>・前回の統合協議時には町の衰退を危惧して学校統合に反対した経緯や当時の委員の感想を紹介し、統合しても将来的には複式化が進む可能性を強く懸念する意見があった。</p>

(保護者の意見)

・小中一貫校としての提案について、義務教育学校と小中一貫校のどちらを想定しているか、質問があった。

➤義務教育学校は想定していない旨を回答した。

(保護者の意見)

・小中一貫校となった場合、教員の業務量増大を懸念し、どのような工夫・支援策を考えているか、という意見があった。

➤小中それぞれでの教科免許を持つ教員の交流が促進されることで、子どもの学びの質向上に繋がると回答した。

➤英語教育への注力化の中で、玉川地区における ALT 重点配置により、充実した学習環境の提供を提案した。

➤小中連携により、小中教員間での情報交換や情報共有が容易になり、中1ギャップの軽減につながる期待を提示した。

(有識者からの意見)

・小中一貫校の場合、小中での授業時間の差が生じるため、給食時間やチャイムなど課題があることを前提に検討が必要との意見があった。

(保護者の意見)

・児童生徒数の減少から、中学校の部活動衰退による中学進学時の市街地学校への流出は避けにくいという実態について指摘があり、中学校の将来像も踏まえて、小学校統合の議論を進めるべき、との意見があった。

(保護者の意見)

・場所ありきの議論では不十分であり、場所より先に「学校の魅力や特色、教育方針」を議論して決めるべきとの意見があった。

・玉川の教育で何を大事にするか、どんな学校を目指すかといった基本方針を委員全体で共通認識し、未来の玉川をどうするかという議論を経て、方針に沿った場所を検討すべき、との意見があった。

(会長の意見)

・将来児童数から、下鴨部付近での新設校建設により、清水小・日高小を巻き込んだ広域統合が有効だとの提案があり、また統合場所より中身（学校のあり方、魅力、将来構想）を深く考えるならば議論をやり直すか提案があった。

➤委員から統合は避けられない、との意見があった。

(地域の意見)

・地域の施設配置や将来の発展性を踏まえ、南側（玉川中学校）に教育機能を集約し、小学校を中学校へ併合することが現実的で支持も得やすい案であるとの提案、及び中学校の将来像も並行して考えるべきとの意見があった。

(会長の提案)

・既存学校の老朽化から、まずは玉川中学校に統合し、児童数の推移を見たとうえで、将来必要であれば、市街地に近い新しい場所に新設校を建てる選択肢も考えられることから、「現段階では中学校に統合」⇒「将来必要に応じて別の場所に新設も含めて再検討」という、段階的かつ可変的な統合の進め方を提案した。

(保護者の意見)

・保護者アンケートは、説明不足のまま実施されており、場所ありきの議論は不公平であるため、まず「どんな学校を目指すのか」を全員で議論し、あらゆる選択肢を比較した上で、統合場所は協議の最終段階で決定すべきとの意見があった。

(保護者の意見)

・場所先行ではなく、「どんな学校をつくるか」という議論を優先し、地域全体で魅力を高めたうえで、最終的に場所を決めるべき、との意見があった。

(保護者の意見)

・支援学級や不登校対応、小規模の良さ、防災安全性などを十分踏まえた具体的な特色づくりを優先し、九和小の安全性や支援体制の良さを評価しつつ、統合後の学校生活の具体的なイメージを示す資料提供を求める意見があった。

▶玉川町の自然や温かい地域風土を生かし、9年間一貫して子どもを見守る教育体制を玉川町に残すことを最優先し、統合場所の決定は地域の意見を踏まえながら慎重に進めたいと教育長から回答した。

(地域の意見)

・玉川中学校への統合は可能と説明あったが、特別支援学級など重要事項は未検討であり、2029年（令和11年）春の開校予定が既定路線のように聞こえることに疑問を呈し、さらに菊間・玉川・大島・大三島の学校統合が決定しているのか確認を求める発言があった。

▶地元代表協議会に至る前段階で、通学区域調整審議会において玉川地区での統合が望ましいとの答申を踏まえた現在の協議であることを回答した。

	<p>また、協議により地域での合意形成が必要であり、統合が確定事項ではないことを教育長から回答した。</p> <p>(地域の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校校舎への統合へ議論が流れつつあるが、低学年児童が安全に生活できる施設か、給食や動線など実務面の問題を十分に検討すべきであり、現場の意見も踏まえて慎重に進める必要がある、との意見があった。</li> </ul> <p>(保護者の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合を進めるには、まず事務局が「出来る事・出来ない事」を明確に示し、その前提を共有したうえで、玉川の未来像やメリット・デメリットを議論しなければ前に進まない、という意見があった。</li> <li>➤統合校は既存校舎を改修して使うことを基本方針とし、新築は現段階では考えていないが、将来的な全地域の再編時には新築も選択肢となり得る、と事務局から説明した。</li> </ul> <p>(有識者の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料だけでなく、実際の校舎や通学路を見て課題を把握し、そのうえで必要な改築案を提案できるよう、協議会メンバーが主体的に現地視察を行うべきだという提案があった。</li> </ul> <p>(地域の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九和小には市街地から支援児童を受け入れている実績があり、統合後の特別支援体制が不透明なままでは議論が進まないため、場所の決定が不可欠であり、教育だけでなく、まちづくりも含めた総合的な議論が必要だ、との意見があった。</li> </ul> <p>(保護者の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回協議会（5月中旬予定）までに保護者説明会を開催し、統合の経緯・案の比較・学校生活面の具体例（チャイム運用など）を分かりやすく説明してほしい、との要望があった。</li> </ul>
4	<p><b>中間まとめ</b></p> <p>会議に進展ないため、支所だよりでの周知はしない、と会の中で決定したが、会長判断により支所だより（4月号）にて周知することとした。</p>
備考	<p>次の開催は、委員交代後、令和8年5月中旬に玉川支所2階大ホールを予定。</p>